授業科目名・形態	環境と人間生活　講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	鳥潟幸男	実務経験の有無	有	開講期	1年後期
科目ナンバリング	C1-1011R				

【授業の主題】
19 世紀半ばの産業革命以降、世界人口の増加と人間活動の拡大により地球環境は大きく変化してきました。その結果、私たちの暮らしはさまざまな環境リスクに直面しています。本授業では、地球環境と人間生活および健康との関わりを体系的に理解し、人間活動に起因する環境問題や、それが私たちの健康に及ぼす影響、さらに代表的な自然災害について広く学びます。

【到達目標】
・環境問題の主要な原因と生活および健康への影響について具体例を挙げて説明できる。
・地球温暖化の仕組みと、気候変動に対する緩和策および適応策について具体例を挙げて説明できる。
・気象・災害情報を読み取り、高齢者・要援護者を考慮した適切な判断および避難行動を選択できる。
・地域の環境課題を一つ挙げ、自分の生活・健康との関係を論じることができる。

【授業計画・内容】
第1回 環境問題の基本（環境とは？　環境問題の根本原因、地球人口の爆発と日本の人口構成）
第2回 地球システム（地球を支える5つのサブシステム、地球の物質循環）
第3回 太陽光線と健康（太陽の恵み、太陽光線の性質、紫外線と健康、オゾン層破壊）
第4回 大気汚染と健康（汚染物質の発生源、越境する大気汚染、酸性雨、放射性物質の大気拡散と健康）
第5回 自然環境と生物多様性（人間活動が自然環境に与える影響、大館市における二ホンザリガニの生息地保全）
第6回 地球温暖化と人間生活（地球温暖化の仕組み、適応策と緩和策）
第7回 エネルギー資源と人間生活（各種エネルギー資源、自然エネルギーの利用、風穴の活用事例）
第8回 都市気候・気象病（ヒートアイランド、気象病（天気痛）、熱中症、花粉症）
第9回 水環境と人間生活（水循環と水資源、上水・下水の浄化、水質汚濁による公害）
第10回 雨と人間生活（雨の恵み、大雨・土砂災害、水害後の健康リスク、渇水、利水、防災）
第11回 雪と人間生活（雪の恵み、雪害、冬季の健康リスク、高齢者等の事故、利雪、防災）
第12回 地震・津波と人間生活（地震・津波災害、緊急地震速報と津波注意報システム、避難所における健康リスク）
第13回 防災総合演習（防災情報の見方と利用、高齢者等避難、スマホを使った演習）
第14回 廃棄物問題とリサイクル（廃棄物問題、海洋プラスチックごみ、リサイクル、都市鉱山）
第15回 食料問題と化学物質、環境影響評価と経済活動（食品汚染、シックハウス、環境アセスメント）

【授業実施方法】
授業形式を基本とするが、スマートフォン等を活用した情報検索やミニ課題提出などを通して主体的学修を促します。

【事前・事後学習】
各回につき、教科書の該当箇所を事前に読み、ウェブサイト等で関連事項を調べる（約1時間）。授業後は復習およびミニ課題への取り組みを行う（約2時間）。

【主な関連する科目】
公衆衛生看護学概論。

【教科書等】
山﨑友紀著：地球環境学入門第3版. 講談社.

【参考文献】
気象庁ホームページ、環境省ホームページ。このほか、必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価方法】
筆記試験（約60%）、ミニ課題提出（約30%）、授業態度等（約10%）を総合的に評価します。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】
講師が取り組んできた大館市のニホンザリガニ（絶滅危惧種）を守る取り組みの実践例を紹介し、自然環境と人間生活の関わりについて自分ごととして考えます。

【学生へのメッセージ】
環境問題を自分ごととしてとらえ、環境変化に適応するにはどうすればよいのか、環境変化をもたらす要因を緩和するにはどうすればよいのか自分なりに考えられるようになりましょう。